上勝建第　４５５　号
平成２０年１０月２０日

国土交通省道路局長　殿

徳島県勝浦郡上勝町
上勝町長　　笠松　和市

今後の道路行政についての意見・提案の提出について

意見書・提案について別添のとおり送付いたします。

道路行政への意見、提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式①

徳島県　上勝町

上勝町においては、県都徳島市と結ぶ道路は唯一県道徳島上那賀線のみであり、昭和40年代から、2車線整備が行われてきたが、未だ役場までの区間で未改良区間が存在している。

このため、町内から近隣高校への通学、徳島市への通勤にネックとなっており、移動手段が道路交通の他にない本町にとって、徳島上那賀線の未改良区間の整備要望が大変強い。

さらには、役場から上流側の区間についても、標高の高い八重地峠を越えて那賀町に至る過酷な自然条件のルートであるが、未改良区間が大部分を占め、冬季には積雪による通行止め区間が存在しており、決してまともな道路とは言えない。平成１６年の那賀町における未曾有の災害では、この過酷なルートが那賀町への輸送路として有効に機能し、いわゆるリダンダンシー効果を発揮した。当該区間については、道路管理者の県から「1.5 車線的」な道路整備の提案があるが、沿線住民が少なく交通量が期待できないからといって悔いを残す整備方式ではなく、那賀町と結ぶ防災の幹線道路として2車線整備を要望したい。

また、典型的な中山間地域の本町においては、町内の建設業者が使命感を持って、豪雨時の防災活動、出水時の水防活動、消防活動、積雪時の除雪活動等を行っており、町民の安全・安心の暮らしを支えている。地域にとってなくてはならない存在となっているが、近年の公共事業の激減により、地域社会での存続が危ぶまれており、地域が崩壊する危険性に直面している。

こういったことから、地域の建設業者が立ちゆくための公共事業は必要であり、とりわけ、町民の期待の大きい道路整備の分野において、縦割り的ではなく横割り連携した上で、計画的かつ継続的な事業実施を強く要望したい。

１　町内唯一の路線である徳島上那賀線について、大規模な豪雨災害や南海　地震に備えて、周辺町村のリダンダンシー効果や防災対策を踏まえた計画的かつ早期の整備を強く要望する。

２　公共事業が中山間地域を支える建設業者の存続に不可欠である視点に立　って、地域にとって真に必要な公共事業を継続的に実施すること。

道路行政への意見、提案

様式②

②ー1地域の現状と抱える課題

徳島県　上勝町

現状－１ 　当町には、鉄道も一般国道もなく、県都徳島市結ぶ唯一の道路が、県道徳島上那賀線であり、現在、正木峠を越えるバイパストンネルを整備中である。　地質の脆弱な正木峠において、山腹崩壊等の災害が発生すると、町の大部分の区域が孤立状態となる	課題－１ 　まずは、現在整備中のバイパストンネルにより、一本道の防災性の向上を図る。 　抜本的には、時間がかかるが、隣町からの農道整備及び各道路管理者との連携により、別線の完成を図ることが課題である。
現状－２ 　徳島上那賀線について、上勝町役場と那賀町の一般国道 193 号を結ぶ山越えの区間が未整備で、冬季は積雪により通行止めとなる。	課題－２ 　那賀町との広域連携、災害時のリダンダンシー路線の形成に向け、当該区間について、防災性の高い道路ネットワークの整備が課題である。 　最近、各地で防災ヘリコプターが活用されているが、山間地域の谷間地形の当町においては、地形上・気候上の問題で、安定機能を発揮できるか疑問であり、防災対応は道路が基本と考えている。
現状－３ 　本町においては、５５集落が存在しているが、夏場には町道に覆い被さるように草が繁茂し、冬場には積雪により町道が凍結し、通行に支障が発生する。	課題－３ 　たとえ一軒の集落であっても、町民が生活している限り、夏場の草刈りや冬場の除雪など町道の維持管理が必要であるが、近年の財政事情から適切な維持管理ができない状況になっている。 　さらに、除雪については、トラクターショベルを所有する地元建設業者の協力により、何とか凌いでいたものの、公共事業の激減により、業者がトラクターショベルを手放しており、厳しい状況となっている。当町において簡易的な作業車を購入し、職員による除雪を行っているが対応できないことも多い。

道路行政への意見、提案

②ー2地域の目指すべき将来像

様式③

徳島県　上勝町

21 世紀の本町の目標は、持続可能な地域社会を構築することである。

このために、環境施策として、「ゼロ・ウェイスト政策」「木質バイオマス利活用」「日本で最も美しい村連合」、地域活性化施策として、「地域通貨実験」「上勝アート・プロジェクト」、若者定住施策として、「地域住宅計画」「上勝町ワーキングホリデイ」などの施策を推進している。

インターネット技術の進展により、情報通信面についての格差はなくなったが、交通インフラ面については、依然として大きな地域格差が存在する。　鉄道も国道もない本町においては、頼みの綱は一本の県道であり、諸施策を推進する上でこれが基本的な社会基盤である。

少子高齢化が進む状況の中、過疎山村にとっては、都市との交流人口の拡大と豊かな自然環境での都市住民の定住を目指している。

また、当町面積の殆どを占める森林を保全することは、国土の保全や都市の環境保全に寄与すると考える。

都市との交流促進や森林の保全のためには、地域で生活する町民の安定的な暮らしを確保する必要がある。

そういったことから、交通インフラの整備、とりわけ県道徳島上那賀線のまともな道路整備が重要であり、交通ネットワークとして十分機能するよう早期整備が求められる。

道路行政への意見、提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④　－１

徳島県　上勝町

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等	その他
・重点事項－１ 地域の実情に合った緊急輸送路等の整備について	・代表事例－１ 当町においては、県道徳島上那賀線が唯一の路線で、災害時の緊急輸送と救命救急搬送に機能している。 近年、防災ヘりやドクターヘりが活躍しており、本県にも配置されてい　るが、当町は山間地域でかつ谷間部に集落があり、勝浦川沿いに視界が取　りにくい地形条件、自然条件となっていることから安定的な航行が困難。 このため、緊急輸送等においては、道路が基本と考えており、道路の防　災性の向上や定時性の確保が重要である。	・期待する効果や評価等－１ 平成１６年那賀町の大災害において、緊急輸送路としての実績があり、現在整備中のバイパストンネルにより、隣町とのリダンダンシー効果が高　まる。また、３次医療機関の徳島赤十字病院への速達性の確保により、町民の救命救急率が向上する。	
・重点事項－２ 町道への維持管理費の補助について	・代表事例－２ 中山間地域の上勝町においては、夏場の草刈り業務や冬場の除雪業務が町財政を圧迫しており、充分な町道管理ができず、住民生活に影響を及ぼ　している。	・期待する効果や評価等－２ 本町においては 55 集落が存在し、町道の管理延長は１７２ｋｍとなっているが、たとえ 1 軒の世帯に通じる町道においても、草刈り業務や除雪　業務が必要と考えている。町道への維持管理費用の補助は、住民の身近な生活の保持に寄与する。	

道路行政への意見、提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④　－1

徳島県　上勝町

・重点事項－３ 公共事業量の確保と計画的な道路整備の実施について	・代表事例－３ 中山間地域では、豪雨災害時の緊急活動、水防活動、積雪時の除雪活動、消防活動等において、町当局だけでの対応は困難で、地元建設業者の機動　的かつ着実な対応が不可欠となっている。地元建設業者は、長く培われた地域の安全に対する使命感により、損益を度外視して緊急時の活動を行っている。 しかしながら､近年の公共事業の削減により、経営が成り立たず、例えば、除雪活動に出動していたトラクターショベルを売却（町内の３台が２　台に）したり、地域の従業員を解雇したりで、除雪活動等に支障が出ている。	・期待する効果や評価等－１ 少子高齢化と過疎化が進展する当町において、地域再生が図れるとと　に、住民の安全で安心できる生活が確保される。	
・重点事項－４ 国土管理としての道路整備の推進について	・代表事例－４ 道路整備の効果は、現行の時間短縮便益等に加えて、水源涵養・二酸化　炭素の削減を始め国土保全便益が大きいと考えられる。荒廃する山林を保全し、緑の環境を維持することは国全体の課題である。 県道、町道、林道、農道といった縦割りを廃し、横割り連携による道路整備を推進すべきである。	・期待する効果や評価等－４ 地域の実情にあった道路ネットワークの整備、災害時のリダンダンシー　効果のある道路整備が推進できる。	